

教団新報

定 価 1 部 144 円 (本 体 133 円 千 共 206 円)
予 約 購 読 料 1 年 分 千 共 5,150 円
紙 代 の み 3,600 円
振 替 00140—9—145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日 本 基 督 教 団
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
一時移転先 169-0072 東京都新宿区大久保 1-7-18
電話 03(3202)0546、FAX03(3207)3918
URL http://uccj.org
発行人 長 崎 哲 夫
編集主筆 渡 邊 義 彦
印刷所 株式会社きかんし



《オイコスチャペル》
日本基督教団はじめ多くの教会の支援によって完成したチャペル（古民家再利用）。9 月 15 日に献堂式の予定。

東日本大震災と アジア学院

荒川 朋子

キリストの愛に基づく世界構築のため

アジア学院は創立41年目を迎える、開発途上国の農村指導者を養成する小さな学校である。「ひと」といふものを支える食べものを大切に、質的な活動を基盤にして共に世界を作ろう。共に生活を送っている。

ベクレルセンターの開設

2011年3月の東日本大震災から3年目に当たる今年3月に被災地仙台で開催された「東日本大震災国際会議」（日本基督教団主催）で、私は発題者としてアジア学院の被害とその後の対応、特に放射能汚染への対応と対策について発表する貴重な機会を与えられ

た。それは栃木県北部に位置する私たちのキャンパスがこの震災で震度6の揺れに見舞われ建物のほとんどが被害を受け、さらに東京電力福島第一原発の水素爆発が引き起こした放射能汚染の被害を受けたからである。福島第一原発からアジア学院までの直線距離は、110kmであるが、地形的にまたその頃に降った雨の影響で、いわゆる放射能汚染の「ホットスポット」が市内にいくつも存在するようない場所には住むことになってしまったのである。この原発事故による放射能汚染の危険というのは、放射能が見えるわけでもないが、闇が迫ってくる恐怖に例えられる。避難するべきか否か、1ヶ月後に迫っていた研修事業の開始を実施すべきか否か、それよりもアジア学院の事業自体の継続が今後叶うのかどうか等、どれにも明確な判断ができずに私たちはただ右往左往するしかなかった。情報に錯綜し、健康被害についての不安も膨まばかりだった。

そんな中、同じ栃木県北部に住む、かねてから親交のあった藤村靖之氏（工学博士・発明家）が近隣の住民に向けて書いた、事故についての解説と今私たちがどう対処すべきかということとを記した11ページに亘る文書がメールで送られてきた。事故から1週間後のことだった。この解説文は分かりやすいだけでなく、地元住民の視点で書かれていたために、具体的に説得力があった。当時のパニック状態の私たちにとってまさに暗闇を照らす光であった。私たちは藤村氏が率いる「那須を希望の郷にするプロジェクト」という市民運動に発起人のひとりとして協力し、生活する場所の空間線量や、食べ物、飲み物、土等、気になるものを全て住民自身で測定する加した。最大で500人が参加したこのプロジェクトでは、数ヶ月のうちに非常に多くの地点、また食べものや飲み物のデータが集計され、その年の10月には私たちの住む市町村に報告と提言書を出すまでに至った。

定所ではアジア学院の農産物とはもとより、持ち込まれたものは拒まず何でも測定し、積極的にデータ収集を行ってきた。市で行っている計測は家庭菜園の農作物の持ち込みに限るなどの制限がある。一方で私たちの計測するものには制限がなく、計測時間も長く、計測後の結果の詳しい説明を行っているので、開設から2年半で2千件以上の検体の持ち込みがあった。

これまでの計測と分析から分かったことは、検体の約7%が政府基準の100ベクレル/kgを超えているということ、まだまだ油断は許されないということだ。また同じ種類の食物でも採れる場所、時期、天候、使用した水や土によって値は変わるので、測ってみなければ分からない」ということだ。

放射能被害は、私たち人間が生活する上で必要な自然の循環を破壊した。特にアジア学院が行う有機農業は、自然の循環に則したものであるため被害は甚大だ。この自然の循環を元に戻すには膨大な労力と時間もとお金がかかる。しかも完全に元に戻すことはこれ

な人材を、生活が非常に困難とされる世界の農村地域に輩出することを目的に事業を続けている。これまでの卒業生は世界55カ国に1273名を数える。今年42期）は30名が16カ国から招聘され、現在様々な研修に積極的に臨んでいる。

私たちはその測定結果を元にさらに学習を積み重ね、那須で住み続けるため、事業を継続するための方策を、プロジェクトに参加した住民の皆さんと一緒に考えていった。

こうしてアジア学院はその年の夏までには独自の放射能汚染対策を立てることができた。食べものの放射能物質の独自基準（食べもの37ベクレル/kg、米・パン20ベクレル/kg、水20ベクレル/kg）を設け、農場の除染対策（深耕、表土除去、ハウス栽培、代替肥料の施肥、代替作物栽培等）を次々に実施した。そして2012年1月には、JEDRO（日本キリスト教協議会エキュメニカル震災対策室）から寄贈された放射能計測器（ドイツ、ベルトールド社LB2045シンチレーション・スペクトロメーター）を有する市民測定所「アジア学院ベクレルセンター」を開設することができた。ベクレルセンターは、近隣の住民の方々と立ち上げた「那須野が原の放射能汚染を考える住民の会（NRRAP）」という団体のメンバーが測定ボランティアとなって運営をしてくださっている。この測



震災から3年、今年の田植えの後で

いまだ問題の只中に

「東日本大震災国際会議」での発表の最後に、私は栃木県出身の政治家で日本での最初の環境保護者と言われた田中正造の有名な言った「山を荒らす、川を荒らす、村を破らず、人を殺さざるべし」を紹介させていただいた。アジア学院の研修では毎年足尾に足を運び、荒れた山々と村々を実際に回ってこの言葉を胸に刻もうと

しているのだが、震災後はこの言葉が以前とは違った重みをもって、まさに目の前の現実に対して訴えかける生きた言葉となった。私たちはいまだ問題の只中にいることを日々実感している。

（アジア学院副校長）

▼宣教研究所委員会▲

今期「改訂宣教基礎理論」に集中

7月25日、移転した教団事務局B会議室に委員全員が集い、今期最後の委員会を開催した。

初めに佐々木美知夫委員長より、今期の活動は、「改訂宣教基礎理論第二次草案」を作成することに集中し、ほとんどの時間と労をそれに費やしたとの確認が



なされ、第39総会への「委員会報告」を承認した。また、先の第6回常議員会では、同草案についてその取り扱いが議され、「改訂にあたって」の部分を除いた形で教団総会議長の前文を付け、冊子として配布した上で、全教団的協議へ移すこととなった旨が報告された。

長崎哲夫総幹事からは、2年に亘る働きについて、委員会の今後の働きと課題について希望が述べられた。

その後、宣教研究所蔵の資料について協議

▼信仰職制委員会▲

次期申し送り4項目を確認

第38総会期第5回信仰職制委員会が、8月4日～5日、第1日は大久保の教団会議室で、第2日は近くの日本福音ルーテル東京教会の会議室を借りて行われた。委員長が急病で欠席のため書記が代行し、委員6名の出席により、今総会期最後の委員会の議事を行った。前回の委員会以降に出された諮問はなかった

め、今総会期の活動を振り返っての評価と展望、並びに、次の総会期の委員会への申し送り事項について検討、協議した。

今総会期は、前総会期の委員会からの申し送りを受けて、「教憲」の学びを継続した。また式文の刊行を目指して、『式文（試用版Ⅰ・Ⅱ）』の検討に着手し、式文における聖書や讃美歌の

取り扱いについても検討した。さらに『教憲教規の解釈に関する答申集』（2010年12月）以降の答申をまとめた追録を冊子として頒布することとした。なお今総会期は、委員全員が男性であったため、委員選任の際に配慮を求めたこととして、

次総会期の委員会に対しては、特に4つの事項を「ル」作成の課題を、継続して検討することとした。

（東野尚志報）

今期委員会が「改訂宣教基礎理論第二次草案」の作成に活動を集中させたため、今期は発行しないこととした。

こと。②「改訂宣教基礎理論第二次草案」から抽出し得る宣教の課題（例えば全信徒祭司性、伝道協力グループ等）の具体的な研究。③宣教研究所編「陪餐問題に関する資料ガイド」についての諸意見の整頓。④互いに支え合うために―各教区謝儀保障・教区互助制度

資料集」の改訂等が挙げられた。最後に、教団の今後の歩みが、恵みにより召された群れとして着実なものとなり、礼拝する喜びと伝道する力に満たされるよう共に祈って委員会を終了した。

（寺田信一報）

差別の問題に出会い、
考え、学び合う場
部落解放青年ゼミナール大集合！



石川一雄さん、佐智子さんと共に

2014年7月31日から8月2日まで、早稲田教会・早稲田奉仕園を会場に「部落解放青年ゼミナール大集合！」が行われ、広島、大阪、東京から20名の仲間が集まりました。青年ゼミは、青年たちが部落差別の課題と出会い、差別からの解放について考え学び合う場として、1998年から16年にわたって毎年続けられてきました。各地でそれぞれの青年ゼミを生きてきた参加者も一度集まり、直面し抱えている悩みや思いを分かち合う集まりになることを願い、プログラムが

企画されました。2日目には埼玉県狭山市を訪ね、石川一雄さん・石川佐智子さんにお会いし、狭山事件について学びました。狭山事件の背景には根強い部落差別があり、そうした偏見によって石川一雄さんは逮捕され冤罪が生み出されました。フィールドワークで警察の調査とおり現場を歩いたときにも、調査内容の多くに不可解な点があることを知り、狭山事件が作られた冤罪事件であることを実感しました。「わたしたちが見聞きしたことを、わたしたち自身が

新たな「証言者」として、石川さんの無実を証明する証拠があるということをしつかりと伝えていきたい。振り返りの中で語られた参加者の声は、参加者全員の気持ちを言葉にしてくれたように思います。

参加者同士の分かち合いで語られた言葉も印象的でした。「水平社宣言の一文『人間に光りあれ』の『人間』を『にんげん』だけではなく『じんかん』、人と人との間」と読ませる節がある。それはイエスが語った『神の国はあなたがたの間にある』という言葉を感じ

（有住 航報）

《日本基督教団教誨師会総会・研修会》

キリストの福音が人生をやり直すに必要

2014年6月30日～7月1日にかけて、日本基督教団教誨師会の総会ならびに研修会が国立オリンピック記念青少年総合センターにて行われた。

研修会は1日目夜に行われ、シロアムキリスト教会の鈴木啓之牧師による講演会であった。

鈴木師は、シロアムキリスト教会とNPO法人「人生やり直し道場」の取り組みを中心として話された。「人生やり直し道場」は最近札幌にも開設し多くの人々のニーズがあるとこのと、人生をやり直すためにキリストの福音が必要だと説いた。また、教誨師として受刑者に向き合うだけではなく、出所した後も入が新たに生き直すために、私たちが必要とされている

運営委員については、入治彦（京都）、加藤幹夫（中部）、黒田道郎（四国）、鈴木真（兵庫）が再任、深山祐（西東京）と世良田静江（九州）が辞任した。これに伴い、これまで監事だった河合望（神奈川）と柳谷知之（東海）が新たに運営委員に選出された。

また監事については、土橋晃（東京）が辞任し、大藪朝祥（九州）、岸本洋子（大阪）が新たに選出された。

さらに第1回の運営委員会において役割分担を決め、会長・加藤幹夫、書記・柳谷知之、会計・黒田道郎とした。

（柳谷知之報）



◆ 第5回夏期研修会 ◆

伝道推進室主催・教師委員会後援

「役員会形成」について学ぶ

8月12日から14日にかけて伝道推進室主催・教師委員会後援の「第5回夏期研修会（合同開催第8回Cコースの会）」が東京神学大学を会場にして開催された。参加者は26名。スタッフを含め総勢44名であった。今回は主題を「信徒訓練・役員会形成」とし、牧会の中で危機に直面し易い役員会をどのように形成していけばよいかを学ぶものであった。

この主題を巡って、教憲教規から役員会の働きと在り方を学ぶために、岡本知之牧師（西宮）に「教憲教

規を土台とした役員会形成」と題しての講演をしてもらった。また、旧教派の伝統も大いに役員会を特色づけることから、ホーリーネスの伝統から大友英樹牧師（赤羽）、組合教会（会衆派）の伝統から菅原力牧師（弓町本郷）、長老教会の伝統から藤掛順一牧師（横浜指路）、メソジストの伝統から長山信夫牧師（銀座）にそれぞれ講演してもらった。参加者が牧会する教会を旧教派の伝統から現状を理解するときの示唆を与えられた。また、ケース・スタディとして3教会の役員会の

実際の様子が報告され、模範役員会も行ってみて好評だった。

牧会夜話では、内藤留幸の牧師としての未熟さに改めて気づかされたことや実際に苦悩する状況を抱えている中で大きな励ましと勇気が与えられたとの感想があった。

また、これまでの5回の研修会の中で葬儀をテーマにした第3回に次ぐ出席者の多さであったことは、参加者の関心が高いことをうかがい知ることができた。

また、朝夕に礼拝を持ち、

小島誠志教師、大隅啓三教師の説教を通して御言葉の養いを受けた。

参加者の中からは、自分の牧師としての未熟さに改めて気づかされたことや実際に苦悩する状況を抱えている中で大きな励ましと勇気が与えられたとの感想があった。

また、これまでの5回の研修会の中で葬儀をテーマにした第3回に次ぐ出席者の多さであったことは、参加者の関心が高いことをうかがい知ることができた。

（宮本義弘報）



3日間にわたり集中して学ぶ

教師異動

日本キリスト教協議会	高円寺	辞教萩生田明
与那原	大村	就主萩生田明
就主外崎 孝	春日東	就代竹内款一
周陽	就代簡井昌司	就主簡井信行
就代簡井昌司	四條巖	就代木ノ脇悦郎
油木	就主老田 信	就主簡井信行
北備	辞兼主老田 信	仙台北三番丁
大阪聖和	就主向井希夫	辞担上野玲奈
廣島流川	就主老田 信	西那須野
川谷	就主向井希夫	辞主菅野勝之
山形六日町	就主波多野保夫	就代秋山 徹
就主波多野保夫	筑後小郡	就代森 浩
真駒内	辞担田中真希子	就代中川憲次
松山城南高校	辞教相澤弘典	ノン山本・クラウディア
松山	就主相澤弘典	中条
松江古志原就	就主川崎 愛	辞主高橋 稔
倉敷	就主有岡史季	教師隠退
蕃山町	就主西川鉄也	吉仲 将、金澤 勤、
延岡城山	就主藤原 仰	渡邊英俊、櫻井義也、
東洋英和女学院	就主深町正信	倉橋 崇、田中英一、
上総大原	辞担倉橋 崇	麻生統一、秋吉隆雄、
仙台市民	解主川上直哉	高橋 稔
大森めぐみ	就主西間木順	教師隠退
就主土井栄鯉子	就主安田 修	第一種教会建設
就主矢崎和彦	就主伊杵 伊杵	名張
就主辻中明子	就主佐藤幹雄	教会種別変更
福岡城東橋就	就主清水宛子	代官山、串木野、尾鷲
甲陽園	就主清水宛子	（第一種から第二種へ）
栗山	就主清水宛子	教会合併
相模原南	就主清水宛子	佐渡、相川（佐渡教会存続）
横濱中田	就主清水宛子	第二種教会設立
川崎境町	就主清水宛子	熊取（伝道所より）
西大井	就主清水宛子	伝道所廃止
我孫子	就主清水宛子	北大阪真愛
青山学院	就主清水宛子	教会加入
青山学院大学	就主清水宛子	姫路栄光第二種
宮城学院	就主清水宛子	0982 姫路市岡田3
にじのいえ信愛荘	就主清水宛子	4711

公 告

第39回 日本基督教団総会開催について

第39回日本基督教団総会を左のとおり開催いたしますので、ここに公告します。

会 期 3日間 2014年10月28日（火）
午後1時30分～30日（木）午後3時
会 場 ホテルメトロポリタン
東京都豊島区池袋一丁目6番1号

2014年8月1日

日本基督教団総会議長 石橋秀雄

傍聴希望者は左の要領に従って

手続きをしてください。

1. 傍聴資格

本教団の教師および現任陪餐会員たる信徒に限ります。なお、信徒の方は所属教会牧師の推薦状が必要です。

2. 参加費 5千円（会場費2千円、資料代3千円）

3. 締 切 10月20日（月）

4. 申込先 日本基督教団事務局総務部
〒169-0072 東京都新宿区大久保一丁目7番18号

お申し込みいただいた後に必要手続についてのお知らせを郵送します。

なお、当日申込みは認めませんので、予めお申し込みください。

◎建議、請願の締切は10月7日（火）になります。

事務局報

補教師登録

宇田慧吾、波多野保夫、
有岡史季、西川鉄也
（2014・5・27受允）
（2014・5・5受允）
川崎 愛
（2014・5・5受允）
（2014・6・28受允）
笹野信治

訃 告



加藤武紀氏（無任所教師）

12年10月5日逝去、72歳。

鳥取県に生まれる。66年東京神学大学大学院を卒業。同年より洛美保育専門学校（現、岐阜済美学院、済美女子高等学校）に01年まで務めた。

遺族は妻・加藤和子さん。松田平太郎氏（隠退教師）



07年10月24日逝去、80歳。

山倉芳治氏（隠退教師）



14年7月30日逝去、84歳。

東京都に生まれる。56年東京神学大学大学院を卒業。同年岡崎教会に赴任し、富山総曲輪、富山二番町、和歌山、愛隣教会を牧会し、97年隠退。98年復帰後04年まで横浜中田教会を牧会し、隠退。



酒井 透氏（隠退教師）

14年6月20日逝去、90歳。

兵庫県に生まれる。63年青山学院大学神学部を卒業。74年本庄教会に赴任し、須賀川北町、軽井沢高原、我孫子教会を牧会し、94年に隠退。

遺族は妻・酒井智子さん。三木茂生氏（無任所教師）



14年6月30日逝去、84歳。

京都市に生まれる。55年同

志社大学大学院を卒業。同年中川教会に赴任し、02年まで千歳栄光教会を牧会した。

遺族は息・三木啓道さん。

西尾雄二氏（隠退教師）

14年5月27日逝去、69歳。

大阪府に生まれる。77年日本聖書学校を卒業。同年洗足教会に赴任し、長崎鮑之浦、鴨東、八尾東教会を歴任し、07年に隠退。

遺族は妻・西尾恵子さん。金澤 勤氏（隠退教師）



14年7月16日逝去、74歳。

神奈川県に生まれる。72年東京神学大学大学院を卒業。同年滝野川教会に赴任し、世田谷平安教会を牧会し、14年に隠退。

遺族は妻・西山恵美さん。岡村松雄氏（隠退教師）



14年7月9日逝去、95歳。

長野県に生まれる。36年松本商業高校を卒業。66年成松伝道所に赴任し、近江八幡、鴨島兄弟、小松川教会を牧会し、東京神学大学事務長を経て、85年から台湾の台北国際日語教会で宣教



14年7月25日逝去、94歳。

東京都に生まれる。51年アソドバーニャートン神学校、53年ハートフォード神学校を卒業。49年大森めぐみ教会に赴任し、00年まで牧会し、隠退。

遺族は息・望月太郎さん。

事務局報

補教師登録

宇田慧吾、波多野保夫、
有岡史季、西川鉄也
（2014・5・27受允）
（2014・5・5受允）
川崎 愛
（2014・5・5受允）
（2014・6・28受允）
笹野信治



上:セントジョージ教会にて、礼拝中の礼拝堂。
左:松本章宏・正子夫妻。

上:セントジョージ教会にて、礼拝中の礼拝堂。
左:松本章宏・正子夫妻。

上:セントジョージ教会にて、礼拝中の礼拝堂。
左:松本章宏・正子夫妻。

父が転勤族だったため、私が通った小学校は6校を数えます。その後、高校時代に力チカチの福音派で救われ、途中聖霊派の影響も受け、最後は教団の牧師になりました。韓国とアメリカの神学校で学んだ時には、ソウルとミシガン

2011年2月にバリーで開催した第一回アジア日本語教会ファミリーキャンプでは事務局を担当させていただきました。

この教会の提案で今年から日本人主婦を対象とした無料英語教室を始めましたが、30数名の生徒に

宣教師からの声

一緒に網を引き上げる 松本章宏

(シンガポール日本語キリスト教会牧師)

へと召されました。妻と2人の息子連れ、アブラハムのごとく行き先を知らずして出発した私たちがたどる着いたのはジャカルタでした。無牧のジャカルタ日本語キリスト教会を2ヶ月間お手伝いするという約束で始めましたが、その後、正式な招聘を受け、専任牧師として就任しました。

この教会は来年40周年を迎えますが、この間専任牧師がいたのはわずか8年ほどです。しかし、主は宣教師の灯火を守り続けてくださいました。シンガポールには3万人以上の日本人が住み、今も増え続けています。この地をたとえるなら、まさに「好漁場」。シンガポール人クリスチャンの愛と証によって、日本人に伝道しやすい環境が整っています。

私たちに40年近く施設を提供してくださっているセントジョージ教会の礼拝堂は3百数十人が座れます。普段は70名ほどの日本語礼拝ですが、子どもと一緒に特別礼拝を企画すると2百名前後の方々が集まります。

この教会の提案で今年から日本人主婦を対象とした無料英語教室を始めましたが、30数名の生徒に

この教会の提案で今年から日本人主婦を対象とした無料英語教室を始めましたが、30数名の生徒に

WCC 声明、日本政府に

オラフ・トヴェイト WCC 総幹事一行7名は、2014年8月1日から約一週間の予定で日本各地を公式訪問する予定であったが、トヴェイト総幹事の緊急入院により、首相官邸訪問を除きすべての訪日スケジュールが延期となった。首相官邸訪問の目的は、今年7月にWCC中央委員会で開催された「核から解放された世界に向けて」、「日本国憲法第9条再解釈について」の2声明を營養偉官房長官に直接手渡し、WCCに連なる140ヶ国の教会、5億人のキリスト者を代表して、2声明の語るところを伝えることにあった。ジュネーブの本部は、このタイミングで声明を伝えることの重要性を考慮し、チャン・サン・アジア地区議長とキム・ドンソン幹事の訪日を決定した。首相官邸を8月4日訪問したのは、チャン・サン・WCCアジア地区議長、西原康太WCC中央委員、加藤誠教団世界宣教師、上田博子前NCC総幹事代行事務取扱、野口陽一・庭野平

名刺交換後、チャン・サン議長は約15分、通訳を介しつつWCCからのメッセージを菅官房長官に伝えた。「核から解放された世界」の声明については、核兵器は真の平和とは全く相容れないものであること、原子力発電所は段階的に廃止するべきであることを伝えた。日本国憲法第9条再解釈については、近隣の教会の一室を借りて行うことになる。

だが、「3局70人の職員がいつも顔を合わせ、教団が一つになっている」という新たな認識が生まれた」と道家紀一さん総務幹事は心を決めている。

新総務幹事は、メノモとお見受けした。以前、他の用件でお尋ねしたところ、立ち所に手帳から詳細な答えが返ってきた。総務幹事に就任に伴い、17年間牧会した井草教会を辞任して、立川からしだね伝道所の兼務主任を務めている。



道家 紀一さん

総務幹事に就任



1960年名古屋生まれ。東神大大学院卒。小松島、井草教会を牧し、2014年総務幹事。

で、大半の文書は会館に置いて来た。膨大な資料、紙文化にどう対処するか。今後の検討テーマになる。

石橋秀雄教団総会議長の「伝道する教団」との掛け声に、道家総務幹事は「内実を整えて行く」ことで応えようとしている。

「何よりも各教会が元気になること。東日本大震災募金で見せている教団の底力を、いろいろな面で発揮して行きたい」と願っている。

09年教団幹事になって以来、ずっと教師委員会に関わってきたので、教師問題に深い関心がある。教団は教師を本当に立てて来たのか。神学校に養成を依

この度、秋南教会・秋田県横手市から百周年記念誌の原稿を依頼された。私自身はその隣の横手教会の出身であるが、喜んで、40年程前のもとも盛んであった地区青年会の交わりのことを書いた。

当時の地区青年会では、年に一度、泊まりがけで修養会をもっていった。皆、夜遅くまで、信仰のこと、仕事のことなどを熱心に話し合った。求道者であった私などは、「この人たちはお酒も飲まないでよくこれだけ話ができるものだなあ...」と思ったほどであった。

その後私は、礼拝において召命を受け、その青年会の交わりによって献身の志を強められた。そして、将来、このような交わりを形成したいとのビジョンを与えられた。私にとって教会は、自分が所属している教会だけではなく、そ

と努力がなされている。その土台にあることは、日本基督教団がキリストの体なる教会(全体教会)であるということであり、私流に言えば、教会は他の教会と共に立つ存在であるということである。

教会が必要に応じ、力に応じて支え合い、協力し合うことは大切だが、教団という全体教会の一教会として共に恵みを分かち合い、労苦を担い合い、協力し合っている。共に立つ教会に任せ、教団全体の伝道の働きに仕えて行きたい。(教団書記 雲然俊美)

共に立つ教会として

のような近隣の諸教会と共にあってこそ教会であった。

全国においてさまざまな伝道協力がなされている。教区においても伝道協力態勢構築のための工夫

日本のキリスト者の声が、世界のキリスト者の声と共に官房長官に直接届けられ、世界のキリスト者の目が日本政府に向けられていくことを伝えられたことは、極めて有意義であった。

(加藤 誠報)